

解禁時間（テレビ、ラジオ、インターネット）：平成20年10月28日（火）午前11時30分
（新聞）：平成20年10月28日（火）付夕刊

平成20年10月24日

報道関係者各位

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

平成20年度文化功労者の顕彰について

本日の14時、奈良先端科学技術大学院大学名誉教授の磯貝 彰が、文化功労者として顕彰されることが、文部科学省から発表されましたので、お知らせいたします。

つきましては、関係資料を配付するとともに、下記のとおり記者発表を行いますので、是非ともご出席くださいますよう、お願い申し上げます。

記

<日 時> 平成20年10月24日（金） 17時30分～（1時間程度）

<場 所> 奈良先端科学技術大学院大学 事務局棟2階 大会議室
奈良県生駒市高山町8916-5（けいはんな学研都市）
※アクセスについては、<http://www.naist.jp/>をご覧ください。

<ご連絡事項>

- (1) 本件及び配付資料については、解禁日時が10月28日（火）午前11時30分となっており、取扱いにはご注意願います。
- (2) 本件につきましては、奈良県文化記者クラブをメインとし、学研都市記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブに同時にご連絡しております。
- (3) 取材希望がございましたら、恐れ入りますが下記までご連絡願います。
- (4) 記者発表に関する問合せ先

奈良先端科学技術大学院大学 広報渉外係 藤里 尚宏、久松 哲平

Tel：0743-72-5026

E-mail：s-kikaku@ad.naist.jp

奈良先端科学技術大学院大学特任教授・名誉教授

いそがい あきら
磯貝 彰
昭和 17 年 4 月 1 日生

昭和 39 年 3 月 東京大学農学部農芸化学科卒業
昭和 39 年 4 月 森永製菓株式会社製菓研究所
昭和 45 年 6 月 東京大学農学部助手
昭和 55 年 5 月 東京大学農学部助教授
平成 6 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授
平成 10 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科長
(平成 12 年 8 月まで)
平成 16 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科長
(平成 17 年 3 月まで)
平成 17 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長 (平成 19 年 3 月まで)
平成 19 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授
平成 19 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学特任教授 (現在に至る)



(賞)

昭和 52 年 4 月 農芸化学奨励賞 (「薬用植物に含まれる昆虫生理活性物質に関する化学的研究」に対して)
平成 8 年 3 月 日本農芸化学会賞 (「アブラナ科植物の自家不和合性に関する生物有機化学的及び分子生物学研究」に対して)
平成 13 年 4 月 日経 BP 技術賞大賞 (汎用性の高いハイブリッド種子作製技術) に対して)
平成 14 年 6 月 日本学士院賞 (「アブラナ科植物の自家不和合性にかかわる自己識別機構の研究」に対して)

生物有機化学、応用分子細胞生物学の分野において、植物特有の生殖形態である自家不和合性の機構を解明し、この成果を応用して、収量に優れるなどの利点のあるハイブリッド種子を効率的に生産する技術を開発するなど、斯学の発展に多大な貢献をした。

氏は、ダーウィンの時代から知られているにもかかわらず長い間謎であつた、植物特有の生殖形態である自家不和合性の機構を解明した。自家不和合性とは、1 つの花の中に、正常なめしべとおしべが存在するにもかかわらず、自らの花粉では受精することができず、種子の形成には、他の個体由来する花粉を必要とする現象であり、種の遺伝的な多様性の維持拡大に寄与している。氏は、アブラナ科の植物を対象に、自らと他を認識する反応を支配しているめしべ側の因子とおしべ側の因子(花粉側因子)の構造を決定するとともに、この特異な生物現象の根幹的な仕組みを、世界に先駆けて分子レベルで解明した。

さらに、氏は、これらの基礎研究の成果を基に应用技術への展開を行い、植物の種子において、収量に優れるなどの利点があるハイブリッド種子を遺伝子組み換えによって効率的に生産する技術を開発することに成功した。これは穀物などにも応用できる技術であり、将来に向かって世界的に大きな問題になりつつある食糧問題に対するキー技術のひとつとして期待されている。

以上のように、植物特有の生殖形態の機構の解明に優れた業績を挙げ、その成果を基に食糧問題への対応策として期待される技術の開発を行った氏の業績は、誠に顕著である。